

福祉のこころはぐくみ新聞

福祉体験新聞(中学生・高校生編) 発行 (福) 沼津市社会福祉協議会

発行日 令和7年3月



令和6年 8月5日 (月)

市内の中高生を対象に、「中高生ふれあい交流事業」を令和6年8月5日(月)サンウエルぬまづにて開催しました。このイベントでは、障がいを持つ子どもたちとの交流を通して障がいへの理解を深め、誰もが同等に生活ができる社会を目指す「ノーマライゼーション」について考えるきっかけになればと企画しました。



障がいについて学ぶ

交流の前に、「障がいとは何か?」の事前学習を行いました。講師はNPO法人こころのまま代表の沼田潤さんです。

沼田さんからは、NPO法人としての活動や、自閉症である息子の晃太郎さんとの実生活を支えながら、障がいを持つ人の特徴や接し方についてお話いただきました。

晃太郎さんは音に敏感なので、大きな音を立ててびっくりさせないように気を付けているそうです。しかし、こういうことに敏感か、何を嫌と思うかは人によって異なるので、まず相手と話をして、様子を見ながら接することが大切です。また晃太郎さんは匂いにも敏感で、コーヒの香りが気に入っている様子を見て、コーヒの淹れ方を教わり、カフェを出店したりしたそうです。障がいを持つ方と関っていく中で、よいところを見つけてそこを伸ばせるようなお手伝いをしたいですね。



【講師】 沼田潤さん



すつかり打ち解けたところで、グループに分かれて制作スタートです。今回は大きなビニールのキャンバスと無地のうちわを用意。「夏」をテーマに、自分の夏の思い出を自由にお絵描きしてもらいました。気分が乗らない子もいましたが、中高生は無理をさせるようなことはせず、会話を楽しみながら作業を進めていきました。事前学習で教わったことを早速活かしてくれています。

みんなでアート制作

勉強会を終え、交流相手と顔合わせを行いました。自己紹介をした後、ゲームで緊張ほぐし!「食べ物」「音楽」「スポーツ」等、様々なお題が書かれたカードを引き、そのお題について、自分の好き・嫌いを自由に語ってもらいました。

交流開始!まずはアイスブレイク



皆楽しそうに会話をしていました。緊張気味な子には中高生が優しく声をかけて、話を引き出していました。



出来上がった作品はサンウエルぬまづにて展示しました。



制作が終わった後はお昼ごはんを食べました。和気あいあいとした雰囲気です。

まとめ

参加者の中には、始めは障がいを持つ人についてマイナスなイメージを持つ人もいましたが、親族に障がいを持つ人がいたり、以前にもこのような交流イベントに参加したことがあり、楽しみに参加してくれた人もいました。それぞれの思いを持って参加してくれたことを嬉しく思います。参加者には、これからも障がいを持つ人への理解と関心を持ち続けてほしいです。



社会福祉法人 沼津市社会福祉協議会

〒410-0032 沼津市日の出町1-15
サンウエルぬまづ(ぬまづ健康福祉プラザ)内
TEL. 055-922-1500 FAX. 055-922-1502
http://numazu-shakyo.jp info@numazu-shakyo.jp



沼津社協ホームページ



公式LINE



Instagram

参加者の感想

- みんなでアートを通して仲良くできました。今回一緒にチームになった子はみんな初めましてで、話したことも会ったこともなかったのですが、レクリエーションやアート制作を楽しくできて嬉しかったです。
- 初めの勉強会にて新しい知識が得られ、色々な人と交流ができてとても満足です。
- 関わりづらいかな?と思っていたけど全然そんなことなく、とても関わりやすかった。
- 自分とは少し違うから、何を考えているかあまりわからなかったが、普通に話をしてくれてよかった。絵を描くのもうちわ作りも、お話しするのも全部楽しかった。

夏の思い出をテーマにうちわを作りました!



参加者全員がポジティブな気持ちでイベントを終えることができ良かったです!